2022 年度出張報告

大平 哲史†, 甲斐 晶子†, 中川 幸子†, 中村 修也†, 丸山 広†, 村上 雄大†,渡邊 夢良己†

抄録　情報メディアセンターでは ICT による教育・研究の高度化を目指して、ICT を活用した教育・研究に関わる調査や最新技術に関する情報収集、および発表を行っている。本稿では 2022 年 3 月から 2023 年 3 月までの出張について報告する。

日本教育工学会 2022 年春季全国大会

場所:　オンライン（オンライン開催（ホスト校鳴門教育大学)）
日程:　2022 年 3 月 19 日～20 日
用務:　ICT を活用した教育研究に関わる情報収集
出張者:　中村修也

シンポジウムでは「教育工学における教育実践研究のススメ」題して、教育実践の課題固有性が高いことや､研究手法の多様性を課題として､研究アプローチ、初等中等教育、高等教育のそれぞれからの事例紹介がなされた。また 195 件の一般発表があり、オンラインでの開催でも多くの高等教育、教育実践、FD、教育・学習支援システムの開発など様々な取り組みについて情報を得ることができた。

（文責・中村）

電子情報通信学会 2022 年総合大会

場所:　オンライン
日程:　2022 年 3 月 15 日～18 日
用務:　ICT を活用した教育研究に関わる情報収集
出張者:　中村修也

2022 年総合大会では 4 日間で述べ 12,500 名の参加があり、多くの聴講参加・発表がなされた。一般公演は多様な分野で 1,653 件行われた。大会規格では「産業界でのデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進の取り組み」と題して経産省、企業における取り組み等について講演がなされた。コロナ禍を経た昨今の DX 推進に関わる情報収集とさまざまな研究発表から大学における取り組みの参考となる情報収集を行うことができた。

（文責・中村）

EDIX:教育 IT ソリューション EXPO（関東）

場所:　東京ビッグサイト　西展示棟
日程:　2022 年 5 月 11 日～13 日
用務:　ICT 教育に関する情報収集
出張者:　甲斐晶子

教育 IT ソリューション EXPO に対面参加した。340 社ある企業ブースでは､GIGA スクール構想､STEAM､個別最適な学び、働き方改革に関するサービスが増加傾向にあった。特に人工知能と機械学習アルゴリズムを使用した学習パーソナライゼーションに関するシステムが目立った。セミナーは､「AI は教育をどう変えるのか」「教育先進自治体 首長パネルディスカッション」「『Future of School』ひとり 1 台のその先へ」を聴講した。

青山学院大学情報メディアセンターでは「AIM Commons」として IT に特化した学習用の施設及びそれに付帯する施設およびサービスを拡充している。その中で個々の学習段階や学習スタイル等のデータをもとにした学習計画立案支援等のサービスも検討ができよう。そのための価値観の共有や、産学官連携の具体事例収集が伺えたことは収穫であった。

（文責・甲斐）

NEW EDUCATION EXPO 2022(東京)

場所:　TFT ビル（東京ファッションタウン）
日程:　2022 年 6 月 2 日～4 日
用務:　ICT 教育に関する情報収集
出張者:　中村修也、渡邊夢良己

† 青山学院大学附置情報メディアセンター

企業ブースではさまざまな教育に関わる機器の情報収集を行なった。基調講演では国立情報学研究所所長喜連川優氏の講演にて、AI、ビッグデータなどデータ解析に関する国立情報学研究所の取り組みと教育との関わりについて情報を得ることができた。滋賀大学データサイエンス学部に関する講演に聴講参加し、データ解析において重要な統計学、計算機科学の重要性と専門家育成の実践的な取り組みについて情報を得ることができた。

（文責・中村）

2022 年度私情協教育イノベーション大会

場所: オンライン（配信会場：アルカディア市ヶ谷（私学会館））
日程: 2022 年 9 月 6 日～8 日
用務: 大学等における ICT 利活用に関わる情報収集
用務: 中村修也、大平哲史

コロナ禍を契機としたニューノーマルな教育として、対面授業、遠隔、オンライン授業のあり方についての講演を中心に聴講参加した。全体会においては文科省による高等教育支援と DX を活用に関する講演に聴講参加し、デジタルを活用した高等教育に関する各大学の事例、取り組みについて横断的に知見を得ることができた。

（文責・中村）

大学 ICT 推進協議会年次大会

場所: ハイブリッド開催（仙台国際センター・事務局担当：東北大学）
日程: 2022 年 12 月 13 日～15 日
用務: 大学等における ICT 利活用に関わる情報収集
用務: 内野文貴、中川幸子

大学 ICT 推進協議会(AXIES)が毎年開催している年次大会に参加した。2022 年度は全てのセッションがハイブリット開催となり、報告する内容は全てオンライン参加したものである。

認証基盤部会では、NII より学認対応 IdP ホスティングサービスの実証実験開始について紹介があった。また、信州大学、群馬大学より SP の立場から学認を利用する際の課題および、次世代学認への要望が紹介された。次世代学認では、IdP が強い認証を提供するためのガイドラインを提供しているが、本ガイドラインに則した IdP の構築・運用を行うことが各参加機関の課題になっており、NII が構築中の IdP ホスティングサービスをはじめ、IDasS への期待が大きいことが確認された。

ユーザーコミュニケーション部会では、ユーザーの満足が向上し、ヘルプデスクのコストを軽減させるための「良い情報発信」について議論が交わされた。京都大学、立命館大学よりホームページのリニューアルの事例紹介、東京工業大学よりユーザー向けマニュアル作成事例が紹介された。情報を受け取る側の多様なユーザー像を明確にするためのペルソナ作りや、伝わるテキストを作成するため、伝えたい人と伝わるかを考える人を分ける体制作りなど、現場で即実践出来そうなアイディアを得た。

（文責・内野、中川）

日本教育工学会 2023 年春季全国大会

場所: 東京学芸大学
日程: 2023 年 3 月 25 日～26 日
用務: 大学等における ICT 利活用に関わる情報収集
用務: 甲斐晶子

日本教育工学会 2023 年春季全国大会に参加した。東京学芸大学を会場とし、288 件の発表が対面で行われ、745 名が参加した。シンポジウムでは「1 人 1 台端末時代における教育工学研究の役割」と題し、文科省、大学教員、現場教員から GIGA スクール構想の現状や現場での実践が語られた。幅広い分野からの研究発表やディスカッションを通じて、教育工学における最新の知見や取り組みについて学び、また、他の参加者との交流を通じて、新たなアイデアや情報を得ることができた。大会は非常に有益であり、今後の研究や実践において活かしていきたいと感じた。

（文責・甲斐）

新図書館棟建築に関わる出張

場所:　明治大学 図書館・和泉ラーニングスクエア
　　大正大学 8 号館
　　武蔵野美術大学 図書館
　　東京都市大学 7 号館
日程:　2022 年 11 月 17 日～12 月 1 日
用務:　新図書館棟建築に関わる視察、情報収集
出張者:　中村修也、村上雄大

2024 年度オープン予定の本学青山キャンパスの新図書館棟（仮称）は“学術的な活動を総合的に支援する「知の拠点」”として、図書館の蔵書に加え PC 教室、個人ワーク環境、グループワークやアクティブラーニングに適した設備を情報学習フロアとして展開予定である。情報学習フロアにおいて、どのようなサービス、設備を提供することが、本学 ICT 利活用支援に役立つかを検討するべく、特徴的な図書館設備・学習環境を持つ大学へ視察・情報収集を行なった。明治大学和泉ラーニングスクエアの多様な学習環境・大正大学の荘厳かつ多機能な図書館・武蔵野美術大学図書館の緻密に設計された導線、資料蔵書の見せ方・東京都市大学 7 号館内の、区画ごとに特化した学習手段が一目でわかるアフォーダンスの設計、各大学の特色と活かした設えと工夫された学習環境は新図書館棟情報学習フロアでも大いに参考にすべき情報が得られた。

（文責・中村）

セキュリティ研修に関わる出張

名称:　情報セキュリティ事故対応2日コース実機演習編
　　DF: デジタルフォレンジックコース 2 日
　　マルウェア: マルウェア解析ハンズオン入門コース 2 日
　　ログ解析: セキュリティオペレーション実践コース 1 日
　　インシデント初動対応基本教育パック
　　DF: IR DF 演習ドリル
場所:　永田町 ラック セミナールーム・オンライン・オンデマンド
日程:　2023 年 1 月 16 日～2 月 13 日
用務:　セキュリティ研修
用務:　丸山広・中川幸子

インシデントレスポンス概論の座学を受講し，３チームに分かれての実機演習を行なった．仮想 CSIRT として，情報セキュリティインシデントの発生から対応までの流れを経験し，チーム内で振り返ったり，他チームの発表を聞いたりした．役割分担が整理されていないと，情報が錯綜し，対応に抜け漏れや重複が生じてしまうこと，事前に外部連携先の連絡先が分かっていないと，緊急事態に外部との連携に遅れが発生すること，自社の契約内容等も押さえておかないと，対応方針の議論がまとまらないことを実感した．情報システムや情報セキュリティの知識よりも，インシデント対応の知識・準備の重要性を認識した．

マルウェア解析の座学および実機を用いた演習を受講した．目的は，情報セキュリティインシデントが発生した際に備えて,「専門業者に依頼するか否かを判断するためのスキルを身につける」「専門業者に“何を”依頼しているのか理解し,業者選定や契約に役立てる」ことである.「不審なファイル」を発見した際に，インターネットで情報を収集するだけでなく，より詳細を調査する手法を学び・体験するとともに，調査過程を３段階（表層解析・動的解析・静的解析）に分けることで，どこまでを自組織で行うか考えるきっかけとなった．

Web サーバのアクセスログおよび HTTP 通信パケットに関する座学と実機による不審・攻撃通信の分析演習を受講した．Web サーバは，インターネット上に公開されることも多く，不審な通信を受けることは避けられないが，その攻撃通信が成功しているのかどうかは，Web サーバを調べることで行なっていた．演習で体験したパケット解析でも同様の目的を達成できることを知ると共に，セキュリティベンダーは１件あたり２秒で調査しているというスピード感を知ることができた．また，不審な通信に気づくには，平常時・通常時の通信を日頃から観察することが重要とまとめられていたが，専業ではないと現実的ではない．一方で,「異常判断」ではなく「平常判断」を AI 技術でできるのではないかと考えるきっかけになった．

（文責・丸山、中川）